

## 看板事業(モデル事業)

# やんちゃキッズの大冒険

### 1 ねらい

幼児が、様々な自然体験や生活体験を通して、自然のすばらしさや厳しさ、楽しさを体感するとともに、自分の力で基本的な生活ができるようにする。

### 2 期日

- ① 夏キャンプ : 平成28年 8月24日(水)～27日(土) 3泊4日  
 (夏キャンプボランティア研修 : 平成28年 7月 9日(土)～10日(日) 1泊2日)  
 (夏キャンプ事前説明会 : 平成28年 8月 6日(土) 日帰り)
- ② 秋キャンプ : 平成28年10月15日(土)～16日(日) 1泊2日  
 (幼児期における自然体験活動指導者研修会との連携事業)
- ③ 冬キャンプ : 平成29年 1月21日(土)～22日(日) 1泊2日

### 3 対象

幼児(年長児)

### 4 参加人数/募集人数/応募者数

- ① 夏キャンプ : 24名/24名/92名
- ② 秋キャンプ : 47名/48名/110名
- ③ 冬キャンプ : 28名/30名/91名

### 5 講師・スタッフ

- ① 夏キャンプ : 法人ボランティア10名 国立立山青少年自然の家職員
- ② 秋キャンプ : 法人ボランティア14名 国立立山青少年自然の家職員
- ③ 冬キャンプ : 法人ボランティア11名 国立立山青少年自然の家職員

### 6 夏キャンプボランティア研修

参加者 : 法人ボランティア10名

スタッフ : 国立立山青少年自然の家職員

	午前	午後	夜
7月9日(土) 1日目	○オリエンテーション ○キャンプのコンセプト確認 ○アイスブレイク	○沢&トントンの森散策 ○アクティビティ企画① ○野外炊事(炊き込みご飯)	○アクティビティ企画② ○幼児キャンプに関する講義 <移動テント泊>
7月10日(日) 2日目	○野外炊事(カートンドック) ○おにぎり作り(昼食) ○瀬戸倉山登山	○研修のまとめ	

### 7 後援・協力

富山・石川・新潟各県教育委員会 富山県国公立幼稚園・こども園教育研究会  
 富山県私立幼稚園・認定こども園協会 富山県保育士会 富山県民間保育連盟  
 北日本新聞社

### 8 日程

#### ①夏キャンプ

	午前	午後	夜
8月24日(水) 1日目		○はじめのつどい ○テント設営	○夜の森の探検・星空観察 ○絵本タイム <移動テント泊>
8月25日(木) 2日目	○キャンプ場探検ゲーム	○沢遊び ○野外炊事	○夜の森の探検・星空観察 ○絵本タイム <移動テント泊>
8月26日(金) 3日目	○おにぎり作り(昼食) ○瀬戸倉山登山	○瀬戸倉山登山	○夜の森の探検・星空観察 ○絵本タイム <不動棟泊>
8月27日(土) 4日目	○朝食作り(カートンドック) ○テント撤収&荷物の片付け	○おわりのつどい	

## ②秋キャンプ

	午 前	午 後	夜
10月15日(土) 1日目	○はじめのつどい ○班タイム (アイスブレイク)	○レンジャーチャレンジ1 「みんなで秋を見付けよう」 ○レンジャーチャレンジ2 「自分の力でやってみよう」 食事準備・片付け、着替え等	○シュラフ準備 ○絵本タイム <不動棟泊>
10月16日(日) 2日目	○レンジャーチャレンジ3 「元気を満タンにしよう」 体をほぐす体操、朝食作り ○レンジャーチャレンジ4 「お兄さん・お姉さんのチャレンジゲームをみんなで楽しもう」	○レンジャーチャレンジ5 「最後までがんばろう」 おにぎり作り、荷物の整理 ○班タイム ○おわりのつどい	

## ③冬キャンプ

	午 前	午 後	夜
1月21日(土) 1日目	○はじめのつどい ○グループでふれあいタイム	○「雪の遊び場作りをしよう」 ○「みんなで夕食を作ろう」 野外炊事	○「夜の探検をしよう」 ○就寝準備 ○絵本タイム <本館泊>
1月22日(日) 2日目	○「雪に親しもう」 しりすべり等	○班タイム ○おわりのつどい	

### 9 参加幼児保護者からの感想

- 親と離れて生活するという貴重な体験の中、楽しい事はもちろん少し苦しい時もあったようですが、「頑張れた」という達成感を1番感じる事ができたようです。
- 3泊4日への不安はありましたが、事前説明会やキャンプ中の情報を得ることができ、本当に安心できるものでした。体験後の子供の変化を見ると、参加できてよかったと実感しています。
- キャンプ後に「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に自分から言えるようになった。特に「ありがとう」は些細なことにも惜しみなく言ってくれるので嬉しいです。

### 10 成果

- 夏キャンプでは、テントを自分たちで立てるといふ所からスタートした。子供たちにとっては初めての体験であったが、普段できない体験をすることが、子供たちの自信につながった。
- 夏キャンプでは、ボランティアスタッフの事前研修や保護者向けの説明会を実施した。キャンプのねらいや活動場所を確認することで、保護者の不安を解消することができた。また、スタッフ間でも、意識を高くもちキャンプへ望むことができた。
- 秋・冬キャンプでは、ストーリー仕立てにしたことで、子供たちが「次は何をするのだろう」と意欲をもち、積極的に活動に取り組む姿勢が見えた。

### 11 今後の課題

- 天候の変化などでスタッフ間の連携がとれず子供たちを不安にさせた場面があったので、事前に状況の変化に対応する場合を想定して打ち合わせをする必要がある。
- 幼児期における自然体験活動指導者研修会との連携において、キャンプのストーリーに研修会のねらいが生かされるような連携が必要である。

